

植物に関するもの

永泉寺の広葉杉

《長沼》

長沼永泉寺の広葉杉は、今より約四五〇年ほど前、永正十四年（一五一七）、三代目住職、心操全忠大和尚が、曹洞宗の本山永平寺より当寺に入山する時、自分が愛育していた広葉杉の植木を持参したものと伝えられている。

昭和三十六年、福島県天然記念物に指定された。樹高三一メートル、目通り二・七七メートル、根廻り六・一七メートル、枝張り八メートル、別名カントン杉、琉球杉、オランダモミなどといわれ、中国が原産である。四国、九州地方に産するもので、北緯二〇度が限界とされている。

今より十五年ほど前に、町の有志の招きでこの寺を訪れた広葉杉の研究家、福田次郎（当時高知大学農学部教授）が調査した結果、日本では最も古く、最も大きい広葉杉と折紙がつけられた。それ以前は変った木で、地方でははつきりした名前は一般には知られていなかつた。

永泉寺は應仁二年、總持寺よりこの地に来た麒山馨麟大和尚によつて開山された寺である。天文年間、会津の領主、芦名氏が日高見山に城を築き、新國氏が領主となると、その菩提寺として帰依された名刹である。